

## 自然資源の利用・配分に関する地球規模での対応の変遷概要

- 1945年 (地球)資源の利用・配分に関する問題意識と調査・研究は始まっていた。
- 1972年 国連人間環境会議(人間環境宣言:ストックホルム) B.W、R.D 「ただひとつの地球」、ローマクラブ 「成長の限界」
- 1980年 米国カーター大統領報告書「西暦2000年の地球」
- 1982年 国連環境計画(UNEP)(ナイロビ宣言)
- 1987年 環境と開発に関する世界委員会(WCED)報告「Our Common Future」(ブルントラント報告書)
- 1989年 3月「ハーグ宣言」、9月「地球環境保全に関する東京会議」、11月「ノルトブレイク宣言」
- 1992年 環境と開発に関する国連会議(WCED): 気候変動枠組み条約、生物多様性条約、アジェンダ21
- 1997年 気候変動枠組み条約第3回締約国会議(京都CO3)
- 2000年 ミレニアム開発目標、ミレニアム生態系評価、
- 2002年 持続可能な開発に関する世界サミット(WSSD)(ヨハネスブルグ)
- 2005年 ミレニアム生態系評価、  
日本 一「持続可能な開発のための教育の10年」、「3R提唱」、  
JCS「多様な生命が維持可能となる発展ビジョン」創り呼びかけ編
- 2006年 1972年までのEU主導、1992年までの米国主導、2002年までは？  
そして、これからは、日本が主導？
- 2008年 G8サミット(日本ホスト国)、北京オリンピック
- 2010年 ミレニアム開発目標、上海博覧会
- 2012年 WSSD+10年、
- 2013年 気候変動一京都議定書後のCO2排出削減対策
- 2015年 ミレニアム生態系評価、「持続可能な開発のための教育の10年」、「3R提唱」、
- 2017年 30年目、環境と開発に関する世界委員会(WCED)報告「Our Common Future」(ブルントラント報告書)
- 2020年
- 2030年
- 2050年